

2020年NPT（核拡散防止条約）再検討会議第2回準備委員会 広島市長メッセージ
ジュネーブ 2018年4月25日

はじめに、自らの耐え難い苦しみを証言することにより、人々に核兵器の非人道性を伝え広めてこられた被爆者の方々の長年のご尽力に、心より感謝を申し上げます。核兵器廃絶を切望する被爆者の方々の訴えは、私たちが核兵器の脅威に立ち向かううえで最も重要な原動力であり続けています。

今日の私たちの話し合いは、国際緊張が高まりつつある一方で、北朝鮮の核問題の平和的解決を目指す動きなど核軍縮・不拡散を再び活性化させ、強化するための努力もなされている中で行われるものであり、世界が核軍縮・不拡散の真の進展を望むうえで大変重要なものとなっています。

しかし、核軍縮における進展は、核抑止論や核兵器の近代化政策によって阻まれ続けています。これらの政策は正当性がないだけでなく、国家間の疑心暗鬼を煽り、核兵器使用の新たなリスクを生み、グローバルな安全保障にとっては大変危険なものです。私たちは、長期的な視点に立ったより良い解決策、すなわち全ての国にとって真に共通の利益となる解決策を探求しなくてはなりません。また、この大きな目標を達成するため、完全かつ検証可能で不可逆的な非核化を追求する必要があります。

そのために、国際社会は、改めてNPT第6条の核軍縮の誠実交渉義務を確認し、具体的な核軍縮措置を速やかに実施するべきです。本委員会が多様性の尊重を旨とし、人間家族の一員としての同胞意識に基づく共通の未来ビジョンを育むものとなるよう期待しています。人間の理性に基づく粘り強い対話によって、私たちは「対立的安全保障」を「協調的安全保障」へと転じていかなければなりません。

このため、平和首長会議は、独自の立場から、「核兵器のない世界の実現」と「安全で活力のある都市の実現」という二つの目標の実現を目指して活動しているところであり、世界の何千もの加盟都市が、この目標達成のために協力しています。

私たちは、一般市民の安全で安心な暮らしを守ることなくして世界平和を達成することはできないと考えます。だからこそ、まずは、市民を大量破壊から守るために、核兵器廃絶に全力を尽くしています。この取組においては、私たちの手で核兵器禁止条約を推進することが、核兵器廃絶の実現に向けた重要な道しるべとなります。

同時に、私たちは、相互信頼を促進するとともに、持続可能な開発、難民問題、テロ対策など、各加盟都市が抱える諸課題に取り組むための活力を強化するためにも全力を投入しています。

平和首長会議は、多様な市民社会のパートナーと緊密に協力し、こうした取組を進めることにより、世界の為政者がグローバルな広い視野に立って、それぞれに、また、協力して、核兵器のない平和な世界実現に向けたイニシアチブを発揮できるよう促し、また、支援していきます。

2020年のNPT再検討会議に向け、私たちは、具体的核軍縮・不拡散措置を進展させることによって世界恒久平和の実現を目指していかねばなりません。この目標が実現されるその日まで、共に行動し、休むことなく進み続けようではありませんか。